



Executive Interview

エグゼクティブ
インタビュー

no. 14

このコーナーは神奈川トヨタのお客様である経営者の方にお話を伺うコーナーです。

青葉台商店会 副会長
有限会社 二川屋商店

相澤 光雄 様

東急田園都市線「青葉台駅」を中心として発展した「青葉台商店会」。商店会の発足当時から40年以上、家業の二川屋商店を切り盛りしながら、商店会活動を通じて、街の発展を支えてきた青葉台商店会 副会長 相澤光雄氏にお話を伺いました。

■ 楽しく明るい街づくりをサポート

— 商店会ではどのような活動をされていますか？

「青葉台商店会」は1969（昭和44）年に発足し、40年以上活動を続けています。今は年に1回12月初旬に「青葉台祭りマルシェぶらり〜と」と題した催しものを商店会主催で行っています。「マルシェ」とはフランス語で「市場」という意味で、駅前の歩道を使って、青年部が餅をついたり、舞台を作って日体大のチアガールに演技を披露してもらったり、ソーラン踊りなんかもやっています。青葉台中学校のみなさんの吹奏楽の演奏もあります。みなさんに来てもらって青葉台のお祭りにしようと企画して、昨年末で4回を数えます。ゆくゆくはもっと大きなものにと頑張っています。昔は「青葉まつり」として盛大に行い、芸能人など呼んで、地元以外の方もかなり来てくれ

ました。そのうち駅前開発などで場所が確保できず、「青葉まつり」はなくなってしまいました。我々のように昔から商店会にいる人は、その頃の「青葉まつり」を何とか復活したいという思いでやっています。

他にも、地元の皆様に親しんでもらって気楽にお店に入れるように、スタンプラリーを企画したり、商店会の店の前を美しく楽しい通りにしてお客さんに見てもらいましょうと「フラワーロードの会」というものを作って、年に3・4回、花を会員のみなさんで植える活動などを行っています。これはかなり前からやっていて、今年から地元の小学生・中学生にも手伝ってもらいました。街ぐるみでいろんなことをやろうと考えてやっています。

また、横浜市の援助をもらって、街路灯等の整備もしています。街路灯は、防犯を考えて全部商店会で準備しました。電気代も商店会が負担しています。防犯カメラは今まで5個設置して、今後5個追加を予定

しています。防犯カメラの設置で青葉区の犯罪がだいぶ減ったとも聞いています。防犯カメラがあるというだけでも抑止力になるようです。夜も安心して歩ける街にしたいですね。





若い世代とともに 地元の人々に愛される街づくりを

— ご自身のご商売について教えてください。

二川屋商店は、1951（昭和26）年に川崎で父が立ち上げ、金物雑貨を主にやっていました。移転したのは1968（昭和43）年頃です。川崎からここに移って会社を建てた時には周りにはビルが何もなく、私の会社のビルが最初です。当時はビルの4階から駅が見えたものです。

母は慣れ親しんだ土地を離れて大丈夫かと心配していましたが、父は駅から近くて新しい街だし、これから人がどんどん入ってくると、数ある候補の中から、当時まだ駅も開業したばかりの青葉台に決めました。

— これから発展するだろうと見込まれたということですか？

そうですね、その勢いと言ったらすさまじいものでした。私たちが青葉台に移ると同時期にどんどん住宅が増えて、人が増えました。日用品を買い求める人で土曜日曜は結構忙しかったものです。今は主に官庁関係、病院や介護施設などを相手に商品を納品しています。トイレトーパーや厨房用品、場合によってはお菓子などの注文も受けます。あと細かい工事なんかも頼まれます。ちょっと段差があるから直してくれ、扉がおかしいとかというような細かい仕事も頼まれてやります。

「青葉台商店会」も、うちがお店を開いてからどんどん店も増え、商店会としてでき上がっていきました。

— 商店会も同時に大きくなっていったということですか？

そうですね、青葉区内の商店街では

一番大きくて、今では160店舗加入しています。

■ 若い世代の地元愛を後押し

— 商店会では「AOBA style」というものを提唱していますね。

うちの商店会は、歴史は古いんですけど、新しいお店も結構仲間入りしています。ただし、青葉台に出せば売れるだろうというような、安易な考えのお店は途中で辞めちゃう方が多い。青葉台というのは渋谷など東京へのアクセスがいいだけに、みなさん東京に行ってしまう。やはり地元のお客さんに好かれるような、いいものを安く提供しないと上手くいかないですね。

— 地元のお客さんの目を地元に向けてもらう努力が必要ということですね。

そうです。では「みんなに好かれる商店会」となるには青葉台はどうなんだ、と話し合いの度にいろいろ意見を交わまして、なにか形を出そうということで「AOBA style」というものを打ち出しました。まだまだ始まったばかりでどこを頂点にするかというような具体的なことはまだ決まっていないのですが、「こういう

のはどうかな」なんて、いろいろ検討している途中です。

— これから商店会はどのようになっていけばいいと思われますか？

渋谷・新宿などと違い住宅地ですから、それぞれの店が地元のお客さんに喜んでもらえるような店づくりというのは基本です。それを基本にして新しい物ややっていこうと思います。

また、地元で生まれて地元で商売している若い人たちが、商店会の手伝いをしたいと、一時途絶えていた商店会の青年部を再結成してくれました。彼らはすごく地元愛が強く、一生懸命いろいろなことを考えていろいろやってくれています。

青年部では一般の人にも参加してもらっています。商店街の会合があるから来てと言うと尻込みしちゃうけど、ただ酒を酌み交わすだけでもいいから集まってやってくれと言って、一般の人も呼んで集まって飲んだりしていくうちに、「今度こんなことやろうよ」なんて意見を出してくれたりして、段々いい雰囲気になってきています。

そういう仲間が育ってきているので、我々は応援して、若い感覚でこれからの商店会をつくっていったらいいのを支えていきたいと思っています。

<インタビューを終えて>

商店会の地道な活動で地元を愛する人が育ち、その人が新たに街を育てていく。商店会は物を売るだけでなく、一店一店が集い、街を作り、一緒に育っていくものなんだと感じました。

二川屋商店

〒227-0062
横浜市青葉区青葉台1-15-27
TEL：045-981-8617
FAX：045-984-3470
営業時間 8：30～19：00
定休日：土・日・祝日

青葉台商店会

<http://www.aoba-town.com/>